

令和6年度第2回学校運営協議会 議事録

日時:令和6年10月29日(火)

9:19~10:46 学校運営協議会

10:50~11:15 現地視察

会場:本校視聴覚室

[出席者名]

社会福祉法人新生会新生園参事、ふれあいランドいわて館長、岩手県立療育センター事務局長
矢巾町立矢巾東小学校校長、藤沢自治会自治会長、PTA 副会長、校長

[盛岡となん支援学校 職員 出席者]

副校長2名、総括教務主任、総務部長

[欠席者]

矢巾町役場福祉課長

1 開会のことば(会長)

2 校長あいさつ

運営協議会は、通算8回目となる。これまでの熟議が実を結んできており、3つほど取組報告がある。畑の取組は、正直実現が難しいかと思っていたが、皆様からのアイデアや人との縁などによってあれよあれよという間につながっていくことに、ドラマチックで本当に感動した。本会で「夢を語る」ことは、実現可能かは後回しにして、「楽しいな」が原動力となるような御意見・熟議を本日もお願いしたい。

3 本校の取組報告(司会進行:副校長)

(総括教務主任の報告)

A 東小との自然な交流

・低学年からの交流を実施してはどうかということだったが、本校小学部5・6年が東小の学習発表会予行見学を計画した。残念ながら当日雨のため中止となった。

・教務主任同士の話し合う機会が多くもつことができた。

B フレームランナーの学習環境を整える

[キーマン・キーワード] 療育センターを起点に

①体育館の使用許可

②障がい者支援部と岩手県障がい者スポーツ協会のつながり

③本校教諭と岩手県障がい者スポーツ協会のつながり

④障がい者支援部理学療法士さんと体育科教員

【理学療法士さんが授業にくることによって新しい風が吹いている】

☆特に大切にしたい心に響く理学療法士さんの言葉(教員が学んだこと)☆

障がい者スポーツとは、

『「ヒト モノ と カンキョウ」を整えることで何でもできます。また、スポーツはどう役割をもたせるかで、誰もが一緒にスポーツができます。そして、関係者のゆるいつながりが、大事だとぼくは思っています。』

・地域連携においても「丁寧にゆっくり、できることをできるときにやっていく」ことで長くしっかりとつながっていくんだなと示唆を受けた。

《実際の授業の動画視聴》

C 畑を作る

・プランターを設計製作できる方がいないか矢巾町役場に相談し、紹介していただいた。そして、見事な木製プランターを製作していただいた。

D 地域交流

・R4年度に学校運営協議会が始まった当時、本校は、コロナ禍でなかなか外に出られない状況だった。そのなかで、担当だった副校長に、学校運営協議会の委員であった矢巾町民生委員(藤沢地区)さんが自宅の畑での収穫や、はつらつ蝦夷森会という昔遊びを月2回行っているグループを紹介してくれた。令和4年度から本校11月頃来ていただき子どもたちと一緒に昔遊びを楽しむ活動を継続して行っている。

4 熟議

(1)盛岡となん支援学校の学習の充実にために！&地域のために本校ができること

○令和4年～5年の学校運営協議会による熟議の視点を根拠に、インクルーシブ教育の推進と本校の教育活動による地域への発信

A 東小との自然な交流について

(意見)

- ・交流は、同学年にあまりこだわらなくてもこだわらなくてもよいのではないかな。
- ・今後、地域学習を進めたいが、本校は新しい学校なので、近くの施設があるんだよというところを取り入れながら、学習を組んでいきたい。ポッチャ大会など、簡単で、できること、続けていけるものを考えることが大事だと思う。
- ・本校高等部の生徒が全国大会に出場しているので、東小に教えに行くというのもよいのではないかな。同学年の交流を考えないのであれば、高等部の生徒が小学生にポッチャを教える場を設定するのもよいのではないかなと思った。

B フレームランナーについて

(意見)

- ・療育センターの障がい者支援部でフレームランナーに詳しい人がいたので、今後も上手く使ってもらい交流して行ってほしい。本人のモチベーションにもなりよいと思っている。

C 畑を作るについて

(意見)

・写真をみるとまた種が成長し発芽するところを見ているというのは、直接触れて間引くとても面白かったと思う。すごくいい試みだったと思う。

・8月に全肢P連「石川大会」で本校PTA会長が分科会で「ポタジェの取組」も発表したところ、多く質問があった。「どうやってここまでこぎつけたのか？だれ発信なのか？誰が作ったのか？先生が作ったのか？資金はどうしたんだ？実際に車いすでそのまま入れるのか」などとたくさん質問された。すごいことをしていたんだなと思った。この活動はまま続けていき、むしろ発信した方がいいと思う。

・地域資源をすごくよく活用しているなどと思う。地域に発信していくこと。明確な方針をたてなくても無理なく「ゆるい」方がいいのではないかなと思う。

D 地域交流について

意見等特になし

(A～Dまで全体通しての意見)

・花いっぱい運動の件については、町の運動なので「可能かもしれない」という話で町には、まだ、何も話していない。学校内に花を植えるとなると話が違ふとなるかもしれない。(学校の)外に向けて外に出すならと思って話した。草取りをまじめにしないと草だらけになるので、管理も考える必要がある。

○「橋を架ける」ための達成度、取組の充実度、課題について

(総括教務主任より説明)

【取組の達成度】

年度途中なのでまだ言えないが、ABCDの達成できそうな環境設定ができたことはよかった。

【取組の充実度】

取組の充実度は、報道に取り上げられたりしたので、一見充実しているように見えるが、問題は、東小の子どもたちと同じ学習の場で児童生徒たちが「何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができたか」というところにある。そこに落とし込むためには、これからじっくり腰を据えてそれを使って学習に取り組んでいく。そして、子どもたちの声から取組の充実度が出てくると考えている。3回目の学校運営会議の場で充実度を報告できると思っている。つながった多くの方たちの声を聴きながら、今後、半年を切っているが相互に充実感を味わえるように連絡を取りながら進めていきたい。

【課題】

課題については、何とか東小と交流したい。「学年にこだわらずに」「それぞれの行事で」とかが自然な交流につながると思っている。

キーマンの来校促進について、校長先生、教務主任に一回出向いていただくというのもよいと思う。様子を見て「こんなことできそうだな」と思ったことから、授業を実際行う先生方に伝えてもらい、現場の先生方が「それ、いいね」「やれるかな」と思ってもらうことが大切であると思う。「やらせられる」と思うよりも「楽しい」ということを大切に緩やかなウインウインで、パワー関係のない、「ゆるやかな交流」プラス「楽しい」を大事にしながら進める方がいいと感じている。

(意見)

・キーマンの来校の件は、校長同士が見合うというようなことではなく、教職員で来たい人来てくださいというように、日常的にお互い見合えるほうが面白いのではないかと思う。アイデアもたくさん出ると思うので、検討していきたい。

・民生委員の方に支援学校のことをもっと知ってもらう必要がある。大人のつながりがあると、さっき「餅つき」と話していたが、そのような地域の情報を皆もっていると思う。例えば、今日の会議内容を民生委員の集まりで、総括教務主任が話していただくというのではないか。民生委員の中には、障がい者部会もあるので、何かつながりをつくれればと思っている。

5 その他

次回開催日の確認

(最後に各委員に感想をいただいた)

・色々なつながりが強くなり、さらに広がっている。それが定着し、常に拡大していくという流れになってきている。本当にこれから先が楽しみになってきている。

・途中経過など教えていただき、次回に評価となると思うが、こういう感じで「ゆるめ(ちょっと失礼かもしれないが)」で少しでも前に進んでいると感じている。かなり意義のある取り組みである。自信をもって進めていいと思う。地域とのつながり等々も進みつつあると思うので、今回遠野高校との件は、テレビ放送されたということだったが、自分たちからどんどんこういうことをやっているということアピールしてほしい。

・本当にいろんな取組をされていて、私どもとしても学ぶことが多いと思っている。子どもたちのために先生方が努力されている姿が見えている。コロナ禍での対応、土地がない、運動場がないといった制約の中で本当にいろいろ工夫されている。地域のみなさんの御協力にも感謝している。本当に学ぶことが多いなと思っている。

・今年で2年目だが、去年、私どもの学校と何か「架け橋」をかけられないかというあたりから、むしろ進展していった。「地域の架け橋」だったり「遠野」もそうのだが、色々な架け橋があるんだと今日拝見していいなと思ってみていた。

学校で難しいのは、目的と方法が「ごちゃごちゃ」になってしまうことがある。、やることが目的ではなく、やることがあくまで方法である。「子どもたちをこうしたい、こんな学校にしたい」ということが目的になるので、そこのところを自分の反省も含めて、結局「子どものためにやっているんだよな」ということを忘れないようにしながら、これからどんな方法があるのかを、これからも熟議等で意見を出し合っていければなというふうに考えている。

・最初から関わらせていただいているが、年々進んでいるというのが本当によく感じられている。本当に今回もどの活動も前に進んでいる。それは、たぶん本当に先生方の熱意と他の人達を巻き込んでやっている力なんだと非常に感じている。その一端にでも私が関わってられるのが、すごくうれしい。

実は、10月に子どもたちが来た時に、最後に先生が「また来たい人」と言ったら、多くの子どもが「はい」と手を挙げた。それが、すごいうれしかった。だから、そういうので、本当に巻き込んで、さっきのウインウインというのはど

んどん進めていってくれればと思う。

・皆さんの御意見と一緒に、「あんなことやれたらいいね。あんなことやりたいね」という話から始めて、少しずつそれが形になっていっているなど実感している。さきほどから話に出ているが、単発で終わるのではなく、それが継続的に行われていくこと。そして、こどもたちの色々な経験を積んで、それが自信につながっていくようにこれからもできることはやっていきたいと思っている。

6 閉会の言葉(副会長)

・現場視察(体育館のフレームランナー・畑)